

# 戦後の輸送革新

物流博物館では、昭和20年代～50年代の物流に関する映画フィルムを収蔵していますが、これまでに約100本に及ぶ記録映像のデジタル化を完了しました。このたび、デジタル化を記念して、その中からテーマごとに作品を選び、上映会を行うこととなりました。今後は月ごとに上映作品を変え、3月まで毎月1回の上映会を開催する予定です。色彩や傷等を修復し、新たに甦った過去の映像をぜひご覧ください。



「荷役近代化への道」より



「トレーラーとのせかえ車」より



「荷役はかわるー通運のパレット作業ー」より

2018年 **1月28日(日)**

第1回：10時30分～12時30分  
第2回：13時00分～15時00分  
第3回：15時00分～17時00分

※下記作品を1日3回上映します。予約は不要です。 ※参加費は無料ですが、別途入館料が必要です。

<上映作品> ※すべてデジタルリマスター版による上映です。

## ①「荷役近代化への道」

1966年編集／白黒／28分／製作：マツオカ・プロダクション／企画：荷役研究所  
内容：日本の荷役近代化の父とよばれる平原直氏が、主に1950年代に全国を回り撮影した映像を、自ら脚本を書き編集した類を見ない貴重な映像記録。

今日の物流の基礎を作った時代の創意工夫のチャレンジ精神を映像の中を探ります。

## ②「トレーラーとのせかえ車」

1958年／カラー／24分／製作：運輸新聞映画部／企画：日本通運株  
内容：トレーラーやのせかえ車は、鉄道貨物の集配作業の効率を上げるため、トラックのエンジンと荷台部分を切り離すという考えに基づくもので、これらを使った運搬作業について解説した作品。各メーカーのオート三輪が多数登場する。

## ③「荷役はかわるー通運のパレット作業ー」

1958年／カラー／51分／製作：岩波映画製作所／企画：日本通運株  
内容：貨物輸送の現場におけるフォークリフト、パレット、ローラーコンベアなどを用いた荷役の合理化について紹介した作品。条件の整わない中、さまざまな工夫によりこれらの導入をすすめた事例など、その画期的な成果を紹介している。

### 今後の開催予定

第8回 2月25日(日) テーマ：「超重量品輸送の世界・2」  
第9回 3月25日(日) テーマ：「高度経済成長と生活革命」

【開館時間】 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
【休館日】 毎週月曜日・毎月第4火曜日(これが祝日・振替休日の場合開館)、  
祝日の翌日、2017年12月11～15日・12月25日～2018年1月9日  
【入館料】 高校生以上200円／65歳以上100円／中学生以下無料  
\*団体20名以上半額

